

(2) 市民文化施設

1) コミュニティセンター

① 概 要

本市には、コミュニティセンターが16か所あります。

コミュニティセンターは、ふれあいのある豊かな地域社会をつくり上げるため、市民が日ごろ行う様々なコミュニティ活動の「場」を提供するものです。

本市では、長らく社会教育法に基づく公民館を市直営で運営してきましたが、平成に入り、より柔軟に地域活動に対応できるコミュニティセンターへの移行を進めています。

全ての施設で指定管理者制度を導入しているほか、穂積コミュニティセンターは民間事業者所有の建物内に設置しています。

比較的新しい施設が多いものの、もともと公民館として整備され、近年、コミュニティセンターに移行された三島コミュニティセンターなど4施設で、平成29年末現在、築30年を経過しています。

表 3-2-2 コミュニティセンターの概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
コミュニティセンター									
1	葦原コミュニティセンター	新和町21番27号	複合	指定管理	703	H6	23	RC・2	○
2	中津コミュニティセンター	桑田町13番29号	単独	指定管理	750	H7	22	RC・2	○
3	庄栄コミュニティセンター	庄二丁目26番12号	複合	指定管理	749	H10	19	RC・3	○
4	水尾コミュニティセンター	水尾二丁目9番15号	単独	指定管理	832	H11	18	RC・2	○
5	郡コミュニティセンター	郡五丁目12番11号	単独	指定管理	772	H12	17	RC・2	○
6	西河原コミュニティセンター	西河原北町7番21号	単独	指定管理	820	H12	17	RC・2	○
7	穂積コミュニティセンター	下穂積一丁目7番5号	※	指定管理	594	H13	16	－	○
8	畑田コミュニティセンター	畑田町3番6号	単独	指定管理	814	H14	15	RC・2	○
9	東コミュニティセンター	学園町4番18号	複合	指定管理	840	H14	15	RC・5	○
10	豊川コミュニティセンター	藤の里二丁目16番8号	複合	指定管理	1,111	H18	11	RC・2	○
11	彩都西コミュニティセンター	彩都あさぎ一丁目3番4号	複合	指定管理	980	H24	5	RC・2	○
12	三島コミュニティセンター	西河原二丁目7番12号	単独	指定管理	1,051	S54	38	RC・3	○
13	大池コミュニティセンター	舟木町11番35号	複合	指定管理	1,624	S51	41	RC・2	○
14	春日コミュニティセンター	上穂積二丁目13番3号	単独	指定管理	1,092	S56	36	RC・2	○
15	東奈良コミュニティセンター	東奈良三丁目8番5号	単独	指定管理	478	H5	24	RC・2	○
16	沢池コミュニティセンター	南春日丘五丁目1番21号	単独	指定管理	375	S62	30	RC・2	○

※穂積コミュニティセンターは民間施設内に設置

表 3-2-3 公民館から移行したコミュニティセンター

名称	移行前名称	移行年月
三島コミュニティセンター	三島公民館	H24年4月
大池コミュニティセンター	大池公民館	H25年4月
春日コミュニティセンター	春日公民館	H27年4月
東奈良コミュニティセンター	東奈良公民館	H27年4月
沢池コミュニティセンター	沢池公民館	H29年4月
山手台コミュニティセンター	山手台公民館	H30年4月（予定）

② 施設位置図

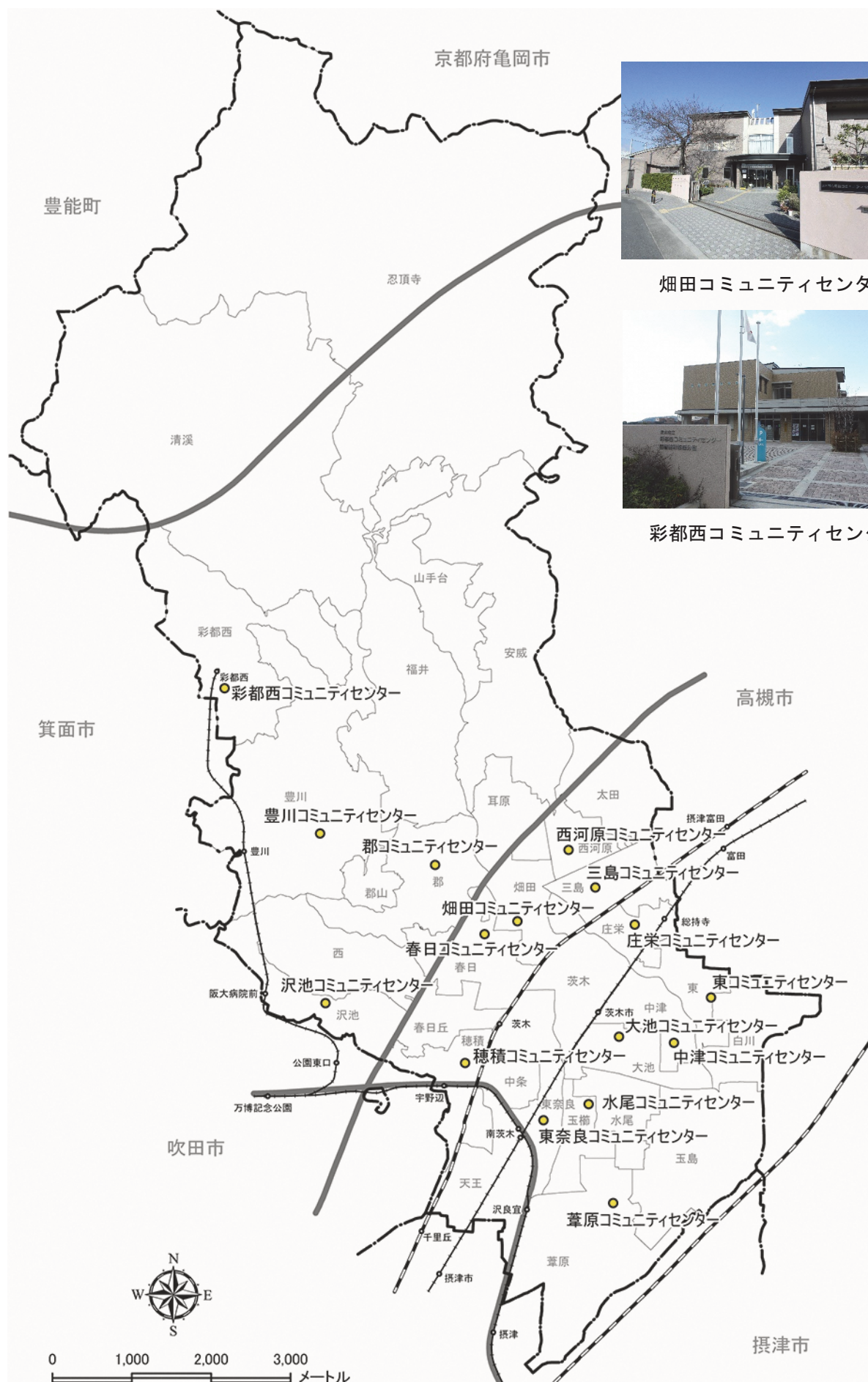


図 3-2-7 対象施設位置図（コミュニティセンター）

③ 利用の状況

平成 28 年度の利用者数をみると、大池コミュニティセンターで約 9 万人と多く、次いで穂積コミュニティセンターの約 5 万 7 千人となっています。

コミュニティセンターには大小さまざまな貸室がありますが、それらの稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）をみると、穂積コミュニティセンターで 71.6%、大池コミュニティセンターで 64.9%と高くなっていますが、3 割に満たない施設も見られます（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。

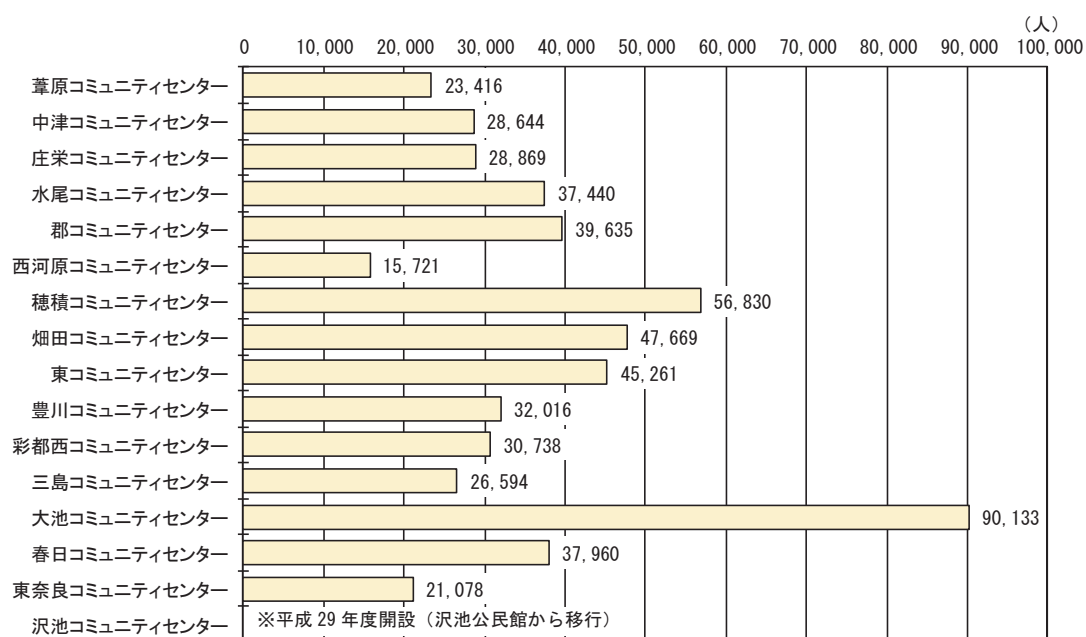


図 3-2-8 施設の利用者数（H28 年度）

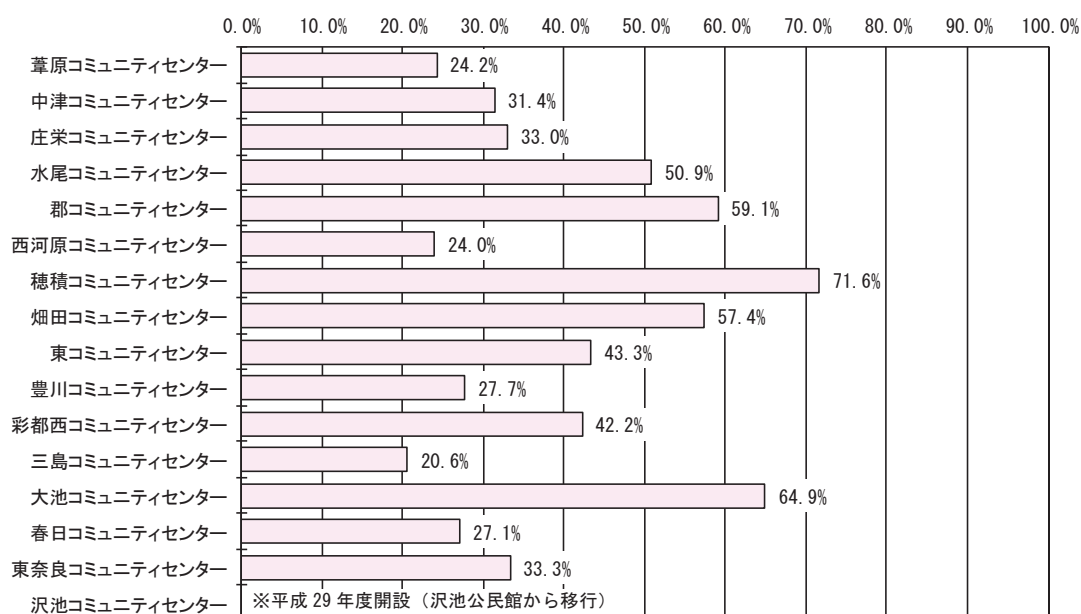


図 3-2-9 施設の利用状況（貸室の稼働率）（H28 年度）

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、最も施設規模が大きく、トイレ改修を実施した大池コミュニティセンターで約 1 千万円と高くなっています。

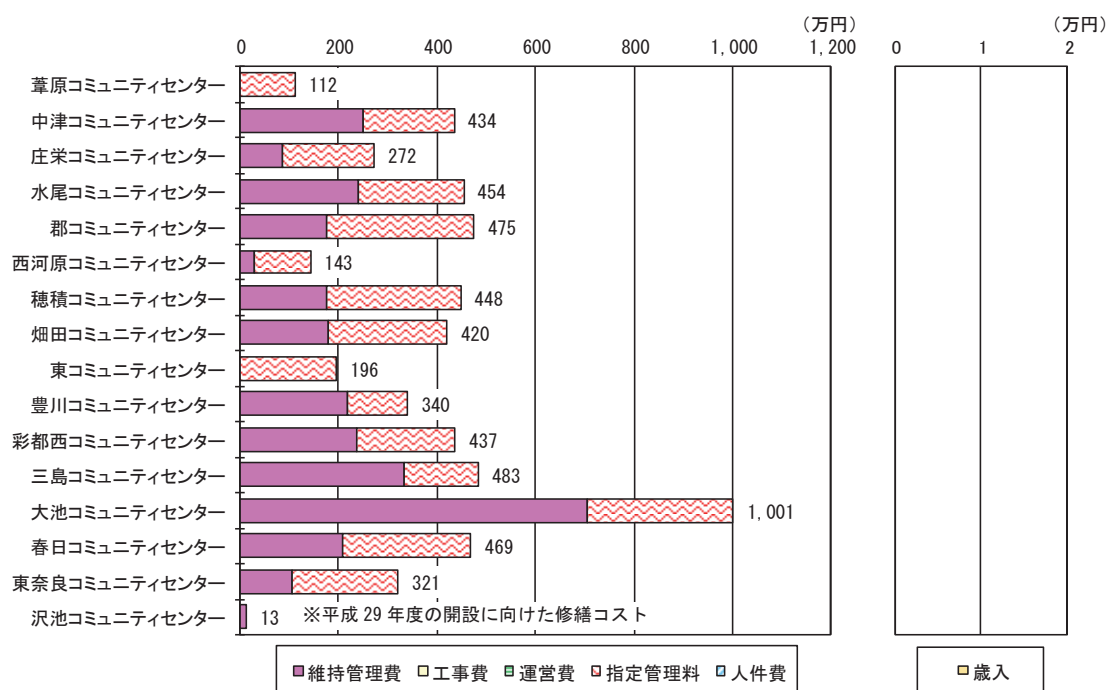


図 3-2-10 施設に関する費用と内訳 (H28 年度)

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、穂積コミュニティセンターで約 7,500 円、東奈良コミュニティセンターで約 6,700 円と高くなっている一方、葦原コミュニティセンターで約 1,600 円、西河原コミュニティセンターで約 1,700 円と低く、施設間で差が大きくなっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、三島コミュニティセンターが 182 円で最も高くなっています。

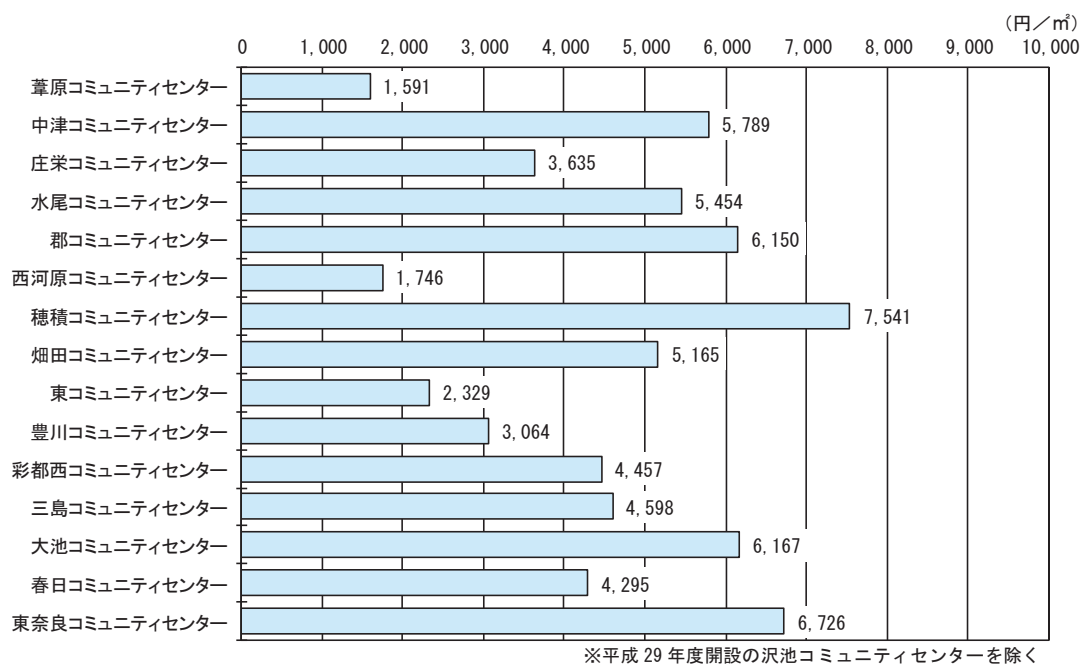


図 3-2-11 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト (H28 年度)

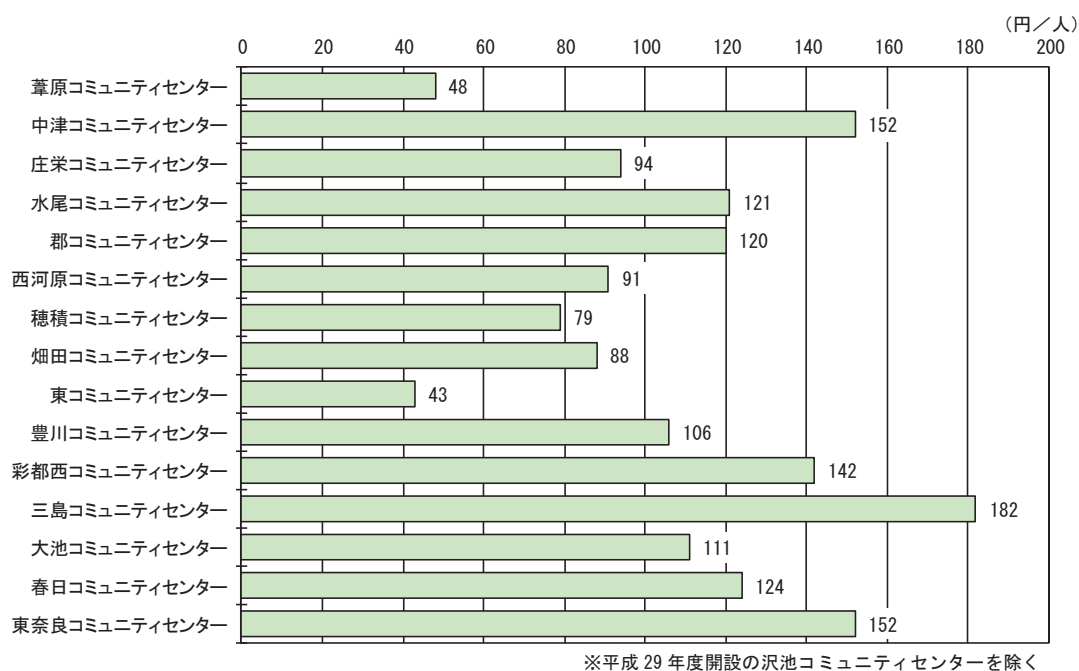


図 3-2-12 利用者 1 人あたりの市負担コスト (H28 年度)

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、穂積コミュニティセンターで約 96 人と突出していますが、おおむね 40 人前後となっています。

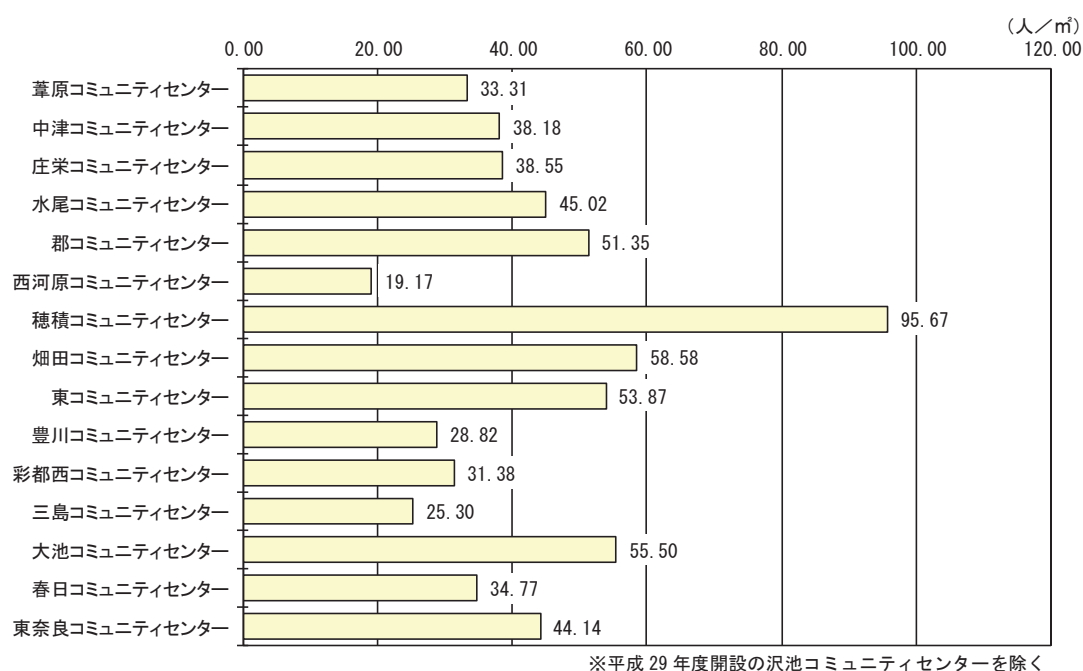


図 3-2-13 延床面積 1 m²あたりの利用者数 (H28 年度)

⑦ 今後の課題等

- ・「茨木市地域コミュニティ基本指針（平成 24 年 3 月）」の策定時に行った「地域コミュニティに関するアンケート」によると、過去 1 年間に公民館もコミュニティセンターも利用していない人が 6 割に上っており、地域住民の利用促進が必要です。
- ・利用の少ない施設においては、地域の集会施設を含めた近隣の類似施設の配置状況等を踏まえ、稼働率の向上等に努める必要があります。
- ・コミュニティセンターでは、指定管理者制度を導入し、地域住民による維持管理、運営を行っています。今後も、地域の拠点施設としての効果を最大限に発揮し、地域の特色を活かした地域コミュニティの実現をめざす必要があります。
- ・平成 30 年度から、各館の持続可能な自立した運営の確保や利用者の利便性・安全性の向上を目的に、指定管理料の算定の見直しを実施する予定です。今後も、施設の管理運営に係る経費の適正化について、定期的な検証を行うことが求められます。

2) 文化会館

① 概 要

本市には、文化会館として、福祉文化会館と市民総合センターがあります。

文化会館には、市民文化の向上に資するため、ホールや会議室等を設置しています。

福祉文化会館（オークシアター）には、文化ホール（347 席）や会議室のほか、ボランティアセンター、社会福祉協議会、水道部事務室などがあり、平成 27 年度に閉館となった元市民会館の西隣に位置しています。

市民総合センター（クリエイトセンター）には、センターホール（429 席）のほか、多目的ホール、会議室等があります。

いずれの施設も指定管理者制度を導入しています。

耐震性に課題のある福祉文化会館については、「市民会館跡地エリア活用基本構想」において、隣接する元市民会館と一体的な見直しを行うこととしています。

表 3-2-4 文化会館の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
文化会館									
1	福祉文化会館（ホール・会館部分）	駅前四丁目 7 番 55号	複合	指定管理	5,921	S56	36	SRC・5	
2	市民総合センター（ホール・会館部分）	駅前四丁目 6 番 16号	複合	指定管理	8,843	H1	28	SRC・5	○



福祉文化会館（オークシアター）



市民総合センター（クリエイトセンター）

② 施設位置図



図 3-2-14 対象施設位置図（文化会館）

③ 利用の状況

平成 28 年度の利用者数を見ると、市民総合センターで約 27 万 5 千人、福祉文化会館で約 21 万 9 千人となっています。

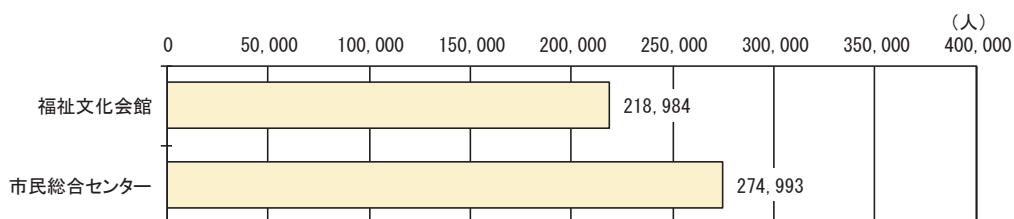


図 3-2-15 施設の利用者数 (H28 年度)

文化会館にはホールをはじめ、大小の会議室等を有しており、それらの稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）をみると、ホール（福祉文化会館の文化ホール、市民総合センターのセンターホール、多目的ホール）、貸室（ホールを除く貸室）とも、おおむね 50～60%の稼働率となっています。（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。

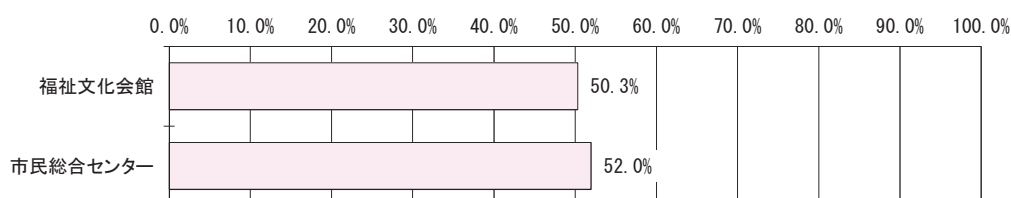


図 3-2-16 ホールの稼働率 (H28 年度)

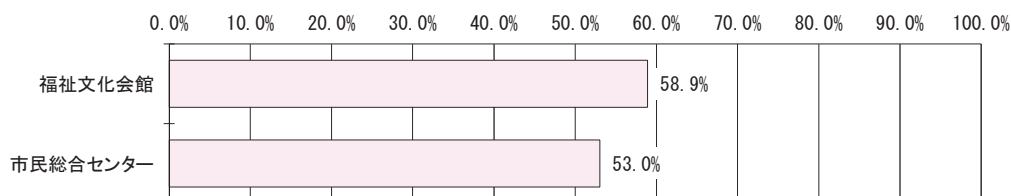


図 3-2-17 貸室の稼働率 (H28 年度)

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、市民総合センターで約 1 億 4 千万円、福祉文化会館で約 8 千万円となっています。いずれも指定管理者制度を導入しており、指定管理料が大部分を占めています。

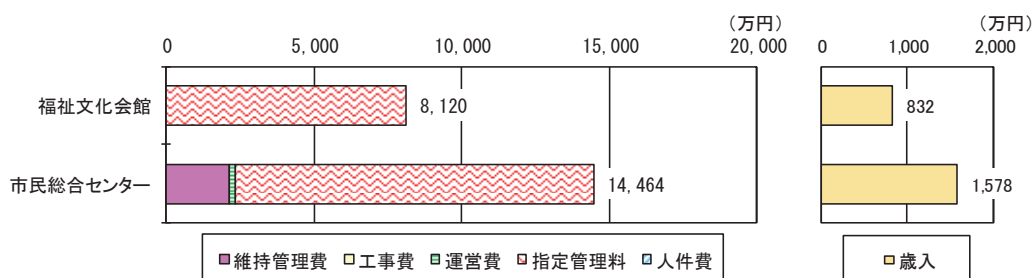


図 3-2-18 施設に関する費用と内訳 (H28 年度)

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、市民総合センターで約 1 万 5 千円、福祉文化会館で約 1 万 2 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、市民総合センターで約 500 円、福祉文化会館で約 300 円となっています。

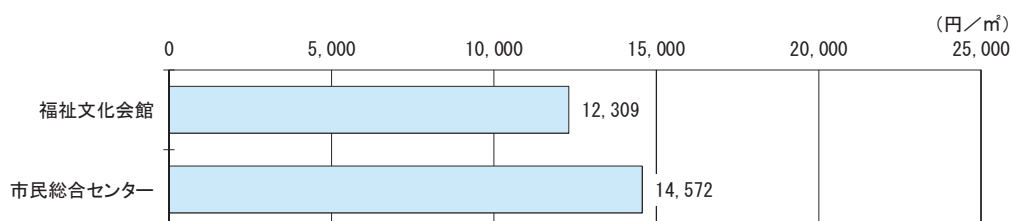


図 3-2-19 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

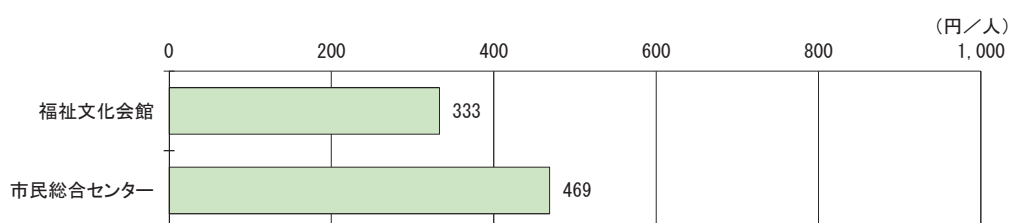


図 3-2-20 利用者 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、福祉文化会館で約 37 人となっています。

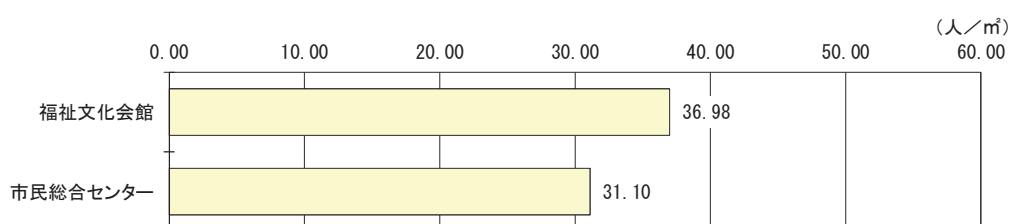


図 3-2-21 延床面積 1 m²あたりの利用者数（H28 年度）

⑦ 今後の課題等

- ・文化会館は幅広い年齢層、用途に利用される施設であり、中心市街地という立地性からも、今後も高いニーズが見込まれますが、元市民会館の閉館に伴う機能移転等による貸室の減少等が課題となっており、今後、周辺施設を含むエリア全体で、市民のニーズに対応していく必要があります。
- ・福祉文化会館の敷地を含む市民会館跡地エリアを活用した新施設においては、周辺既存施設との役割分担や相乗効果に加え、自然・文化的要素を備えた南北軸と、都市的要素を備えた東西軸が交わる特徴を活かした、中心市街地の将来像を見据えた事業展開が求められます。

3) 人権施設

① 概 要

本市には、人権施設としてのいのち・愛・ゆめセンターが分館・別館を含めて6か所、男女共生センターが1か所あります。

いのち・愛・ゆめセンターは、地域住民の福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、すべての人権問題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的として、相談、地域交流、啓発及び生涯学習推進の各事業を実施し、要支援者の自立支援や地域活動支援、人権尊重のまちづくりの発信に取り組んでいます。

男女共生センターローズWAMは、男女共同参画社会実現のための拠点施設として、学習や交流、相談、情報の収集・発信、研修の場の提供など、多様化するライフスタイルやニーズにそった事業の展開と自立支援を行うとともに、自主活動やネットワークづくりのためのフリースペースを設けています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

旧耐震基準で建設されたいのち・愛・ゆめセンターは、耐震性に課題の大きな施設から順次耐震改修を実施しており、豊川いのち・愛・ゆめセンター分館を除いて耐震化が完了しています。

表 3-2-5 人権施設の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
いのち・愛・ゆめセンター									
1	豊川いのち・愛・ゆめセンター	豊川四丁目 4 番28号	単独	直営	1,826	S47	45	RC・4	○
2	豊川いのち・愛・ゆめセンター分館	豊川五丁目10番28号	単独	直営	1,616	S54	38	RC・2	
3	沢良宜いのち・愛・ゆめセンター	沢良宜浜三丁目12番19号	単独	直営	1,590	S48	44	RC・4	○
4	沢良宜いのち・愛・ゆめセンター分館	沢良宜浜三丁目11番13号	単独	直営	615	S39	53	RC・2	○
5	総持寺いのち・愛・ゆめセンター	総持寺二丁目 5 番36号	単独	直営	1,326	S49	43	RC・4	○
6	総持寺いのち・愛・ゆめセンター別館	総持寺二丁目 5 番28号	単独	直営	625	S57	35	RC・2	○
男女共生センター									
1	男女共生センターローズWAM	元町 4 番 7 号	単独	直営	3,619	H12	17	SRC・5	○



総持寺いのち・愛・ゆめセンター



男女共生センターローズWAM

② 施設位置図



図 3-2-22 対象施設位置図（人権施設）

③ 利用の状況

平成 28 年度の利用者数をみると、男女共生センターローズWAMで約 8 万 1 千人となっています。いのち・愛・ゆめセンターの中では、総持寺いのち・愛・ゆめセンターが約 2 万 5 千人で最も多くなっています。

男女共生センターローズWAMのホール（ワムホール、ローズホール）の稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）をみると 64.3%となっています。また、ホールを除く貸室の稼働率を比較すると、男女共生センターローズWAMで 54.7%、総持寺いのち・愛・ゆめセンターで 30.1%となっています。いのち・愛・ゆめセンターは全体的に稼働率が低くなっています。（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。

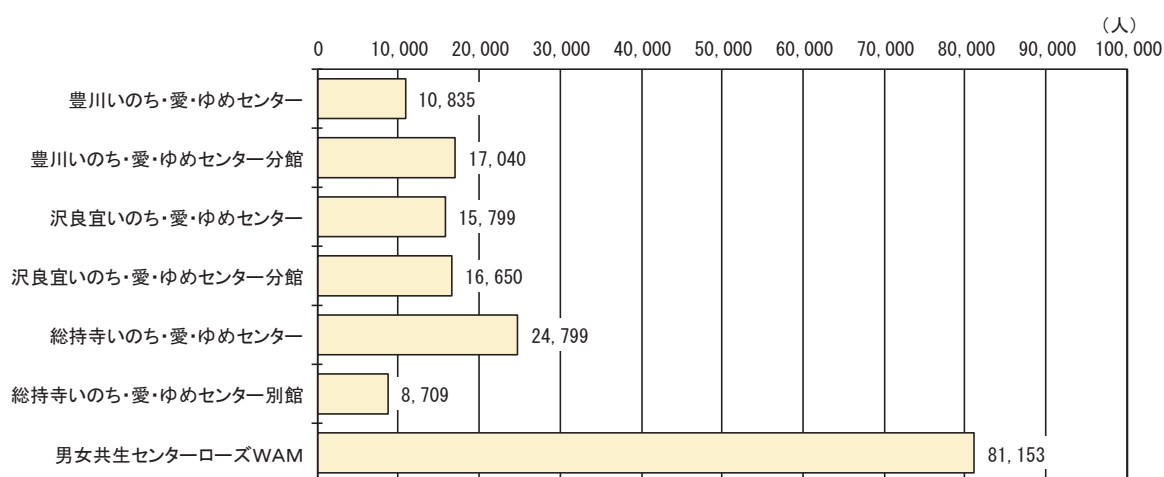


図 3-2-23 施設の利用者数（H28 年度）

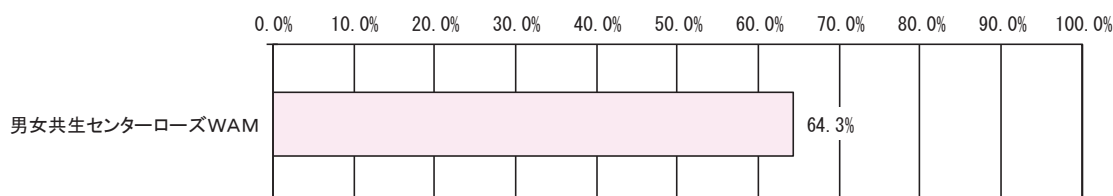


図 3-2-24 ホールの稼働率（H28 年度）

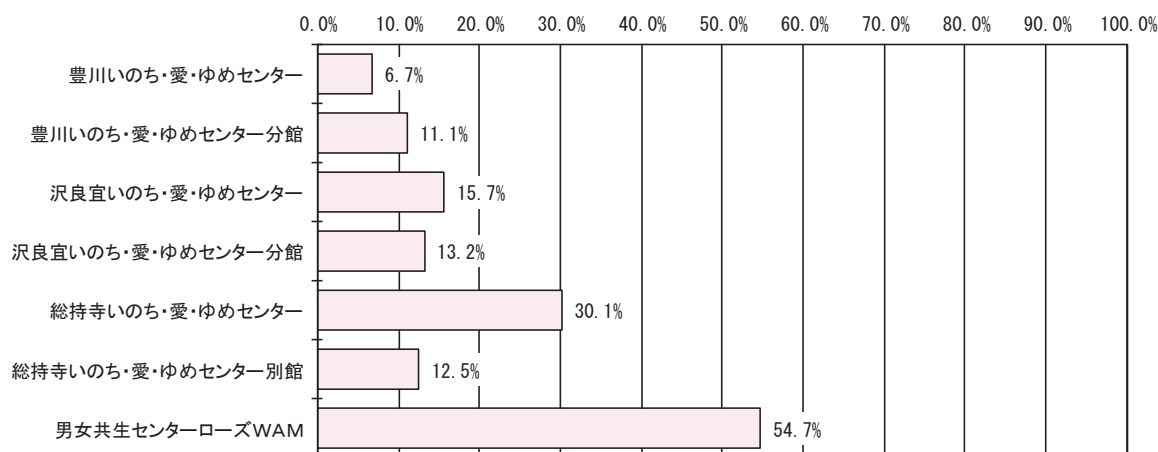


図 3-2-25 貸室（ホールを除く）の稼働率（H28 年度）

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、外壁改修工事を実施した男女共生センターローズWAMで約 1 億 6 千万円となっています。

いのち・愛・ゆめセンターでは、おおむね本館が約 2 千万円、分館・別館が約 1 千万円となっています。

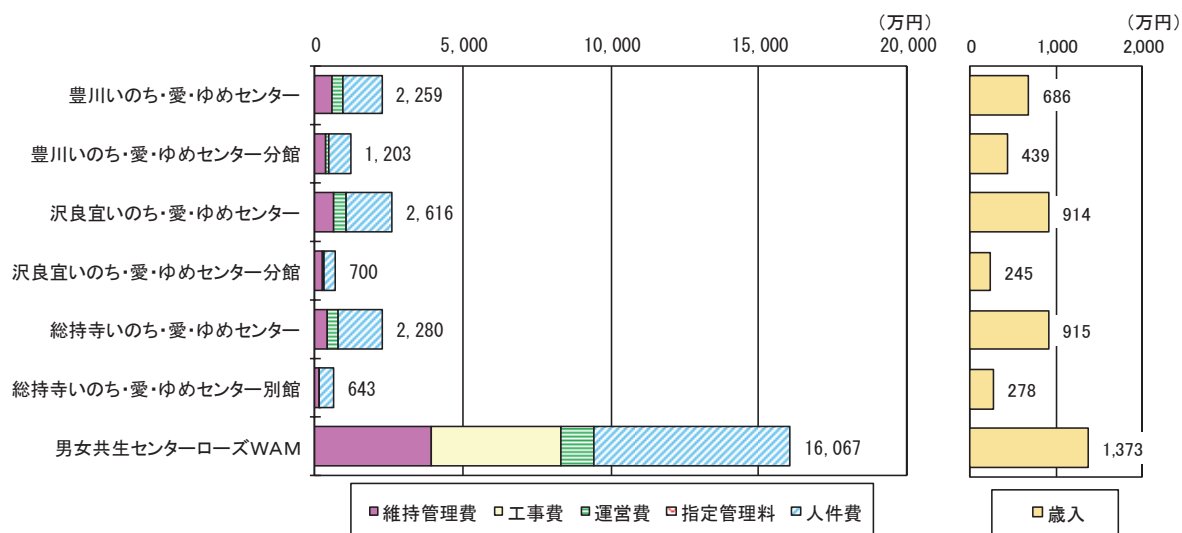


図 3-2-26 施設に関する費用と内訳 (H28 年度)

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、男女共生センターローズWAMで約 2 万 9 千円、沢良宜いのち・愛・ゆめセンターで約 1 万 1 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、豊川いのち・愛・ゆめセンターで約 1,500 円、男女共生センターローズWAMで約 1,300 円となっています。

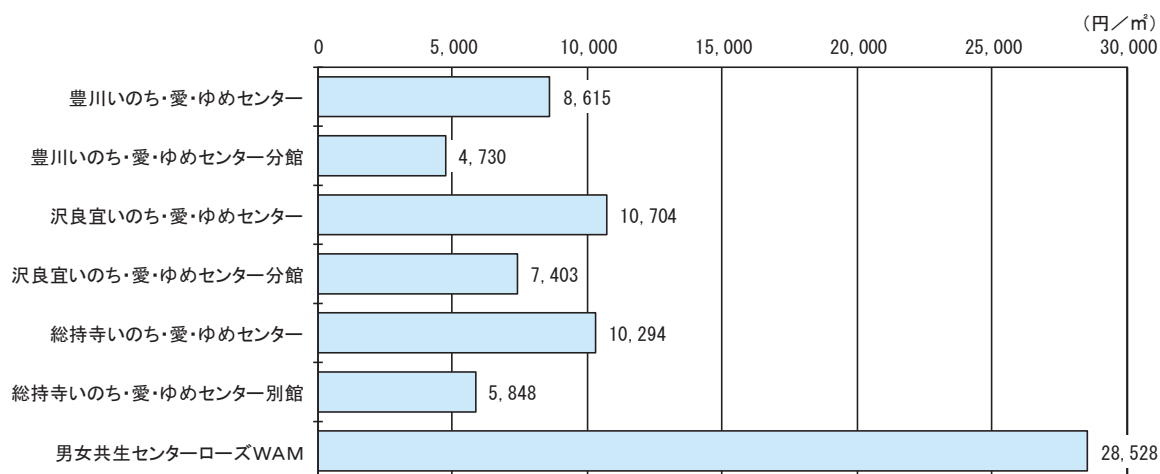


図 3-2-27 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

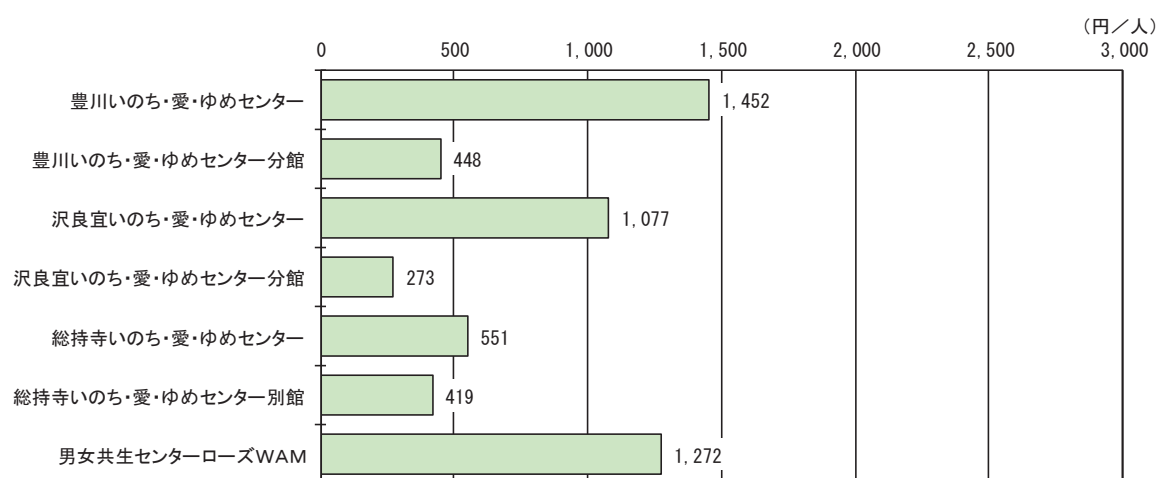


図 3-2-28 利用者 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、沢良宜いのち・愛・ゆめセンター分館で約 27 人と最も多くなっています。

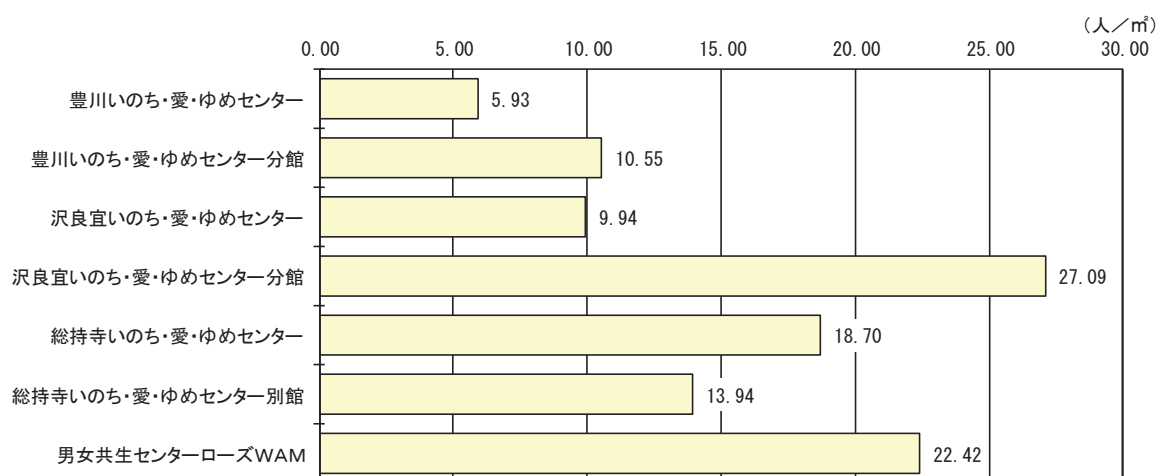


図 3-2-29 延床面積 1 m²あたりの利用者数 (H28 年度)

⑦ 今後の課題等

- ・豊川いのち・愛・ゆめセンター分館では一部耐震性が確保されていない箇所があるため、対策が求められます。
- ・いのち・愛・ゆめセンターは、本館と分館・別館が近接して設置されており、それぞれに 8～12 の貸室を有しています。豊川いのち・愛・ゆめセンター分館の体育室やトレーニング室など、稼働率が 5 割を超える需要の高い部屋もありますが、全体でみると、貸室の稼働率が 2 割に満たない施設は 6 施設中 5 施設であり、貸室の利用状況に課題がみられます。今後、地域のニーズを踏まえて、貸室の適切な供給量を検討し、事業の再構築や各室の最適な用途の検討が求められます。

4) その他市民文化施設

① 概 要

本市には、その他市民文化施設が7か所あります。

生涯学習センターきらめきは、会議室、研修室をはじめ、和室、陶芸室やアトリエ、多目的スタジオ、きらめきホールなどを備えた市民の生涯学習の拠点施設です。

市立ギャラリーは、美術に関する創作及び鑑賞活動を促進し、美術を通じて市民文化の振興を図るための施設であり、阪急茨木市駅ロサヴィア2階にあります。

プラネタリウム（天文観覧室）は合同庁舎内にあり、今晚見える星空の生解説など、様々なテーマで星空を紹介しています。

川端康成文学館では、本市ゆかりの川端康成の業績を讃え、多くの市民に川端文学に親しんでもらう拠点として、氏の著書、遺品、書簡、原稿や墨書のほか、模型・写真・ビデオなどゆかりの品約400点を展示しています。

市民活動センター（アクティブプラザきずな）は、市民総合センターの1・2階にあり、市民活動を支援するために活動場所や設備、情報などを提供しています。市民活動センターでは、指定管理者制度を導入しています。

消費生活センターでは、商品の購入やサービスを利用したときの契約内容、品質についてのトラブル等、消費生活に関する相談を受け付けているほか、生活に役立つ情報の提供など啓発事業も実施しています。

中央図書館内にある富士正晴記念館では、本市ゆかりの詩人・小説家の富士正晴の功績を讃え、生前に収集されていた文学資料や自作の絵画など約8万5千点を収蔵、展示しています。

表 3-2-6 その他市民文化施設の概要

No.	施設名	所在地	複合 区分	運営 形態	延床 面積 (㎡)	主要な建物の情報（H29年末現在）			
						建築年	経過 年数	構造・ 階数	耐震性
その他市民文化施設									
1	生涯学習センターきらめき	畑田町 1 番43号	単独	直営	11,197	H16	13	SRC・4	○
2	市立ギャラリー	永代町 1 番 5 号	※	直営	145	H3	26	—	○
3	プラネタリウム	東中条町 2 番13号	複合	直営	157	S48	44	RC・7	○
4	川端康成文学館	上中条二丁目11番25号	複合	直営	409	S60	32	RC・4	○
5	市民活動センター	駅前四丁目 6 番16号	複合	指定管理	212	H1	28	SRC・5	○
6	消費生活センター	駅前四丁目 6 番16号	複合	直営	227	H1	28	SRC・5	○
7	富士正晴記念館	畑田町 1 番51号	複合	直営	220	H3	26	SRC・2	○

※市立ギャラリーは民間施設内に設置



プラネタリウム



生涯学習センターきらめき

② 施設位置図



図 3-2-30 対象施設位置図（その他市民文化施設）

③ 利用の状況

川端康成文学館とプラネタリウムの利用者数の推移をみると、年度によりバラつきがみられるものの、川端康成文学館は減少傾向、プラネタリウムは増加傾向となっています。

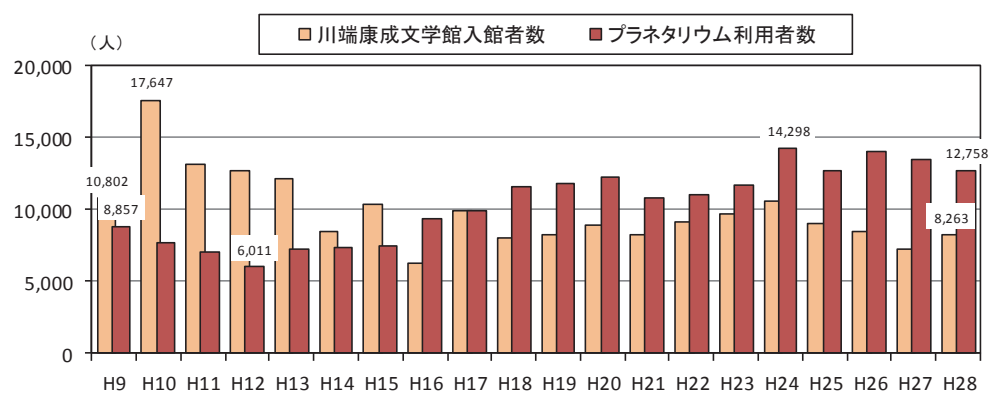


図 3-2-31 川端康成文学館とプラネタリウムの利用者数の推移

平成 28 年度の利用者数をみると、生涯学習センターきらめきが約 24 万 5 千人と突出しています。また、民間施設内に設置している市立ギャラリーの利用率は 96%と高くなっています。

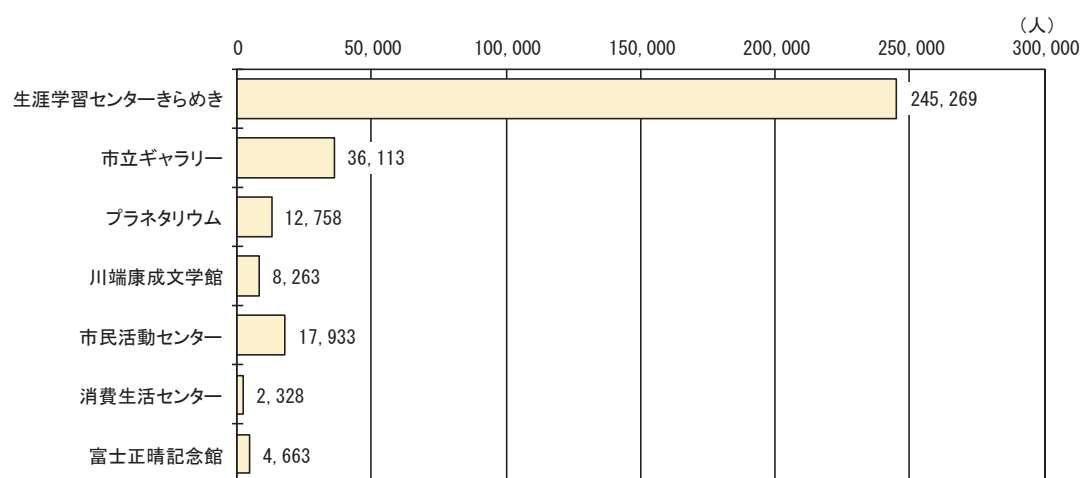


図 3-2-32 施設の利用者数 (H28 年度)

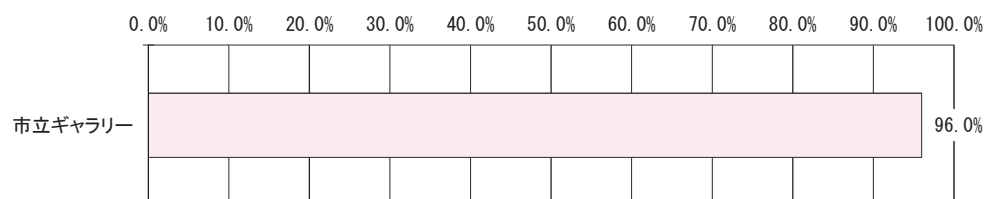


図 3-2-33 市立ギャラリーの利用率 (H28 年度)

生涯学習センターきらめきのきらめきホール（478 席）の稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）は 50.8%となっています。また、ホール以外の貸室の稼働率をみると、音楽スタジオは 96.5%、録音スタジオは 84.6%と高いものの、他の部屋はおおむね 3～5 割程度となっており、全体でみると約 45%となっています。（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。

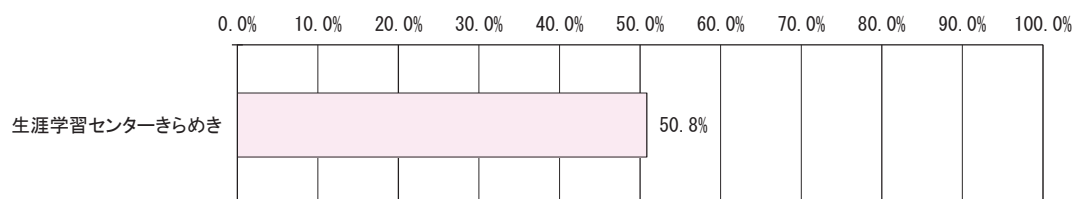


図 3-2-34 ホールの稼働率（H28 年度）

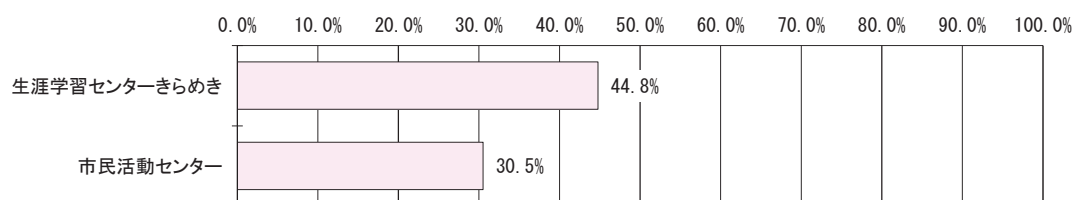


図 3-2-35 貸室（ホール以外）の稼働率（H28 年度）

④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、生涯学習センターで約 2 億円、消費生活センターで約 4 千万円となっています。

また、歳入をみると、生涯学習センターで約 7 千万円となっています。

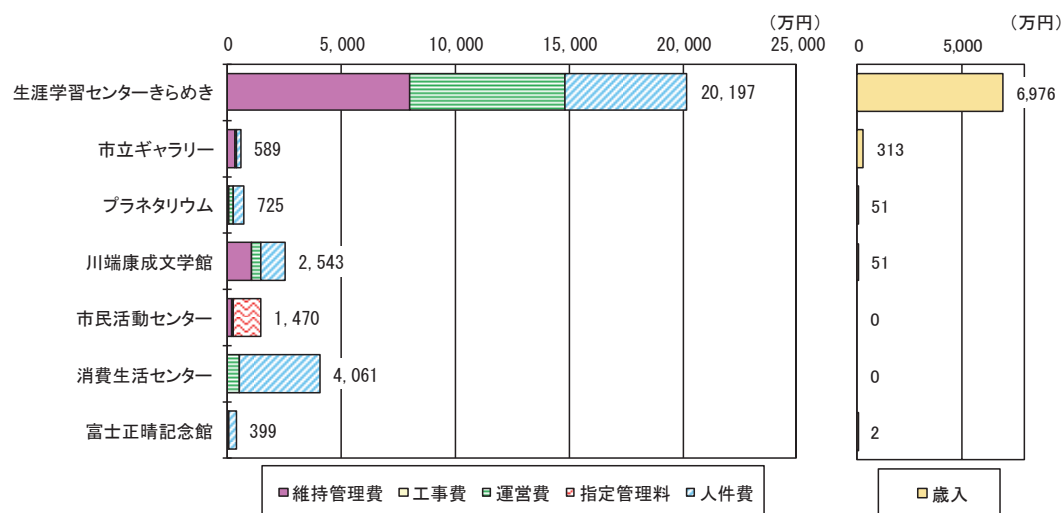


図 3-2-36 施設に関する費用と内訳（H28 年度）

⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m²あたりで比較すると、消費生活センターで約 17 万 9 千円、市民活動センターで約 6 万 9 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、消費生活センターで約 1 万 7 千円、川端康成文学館で約 3 千円となっています。

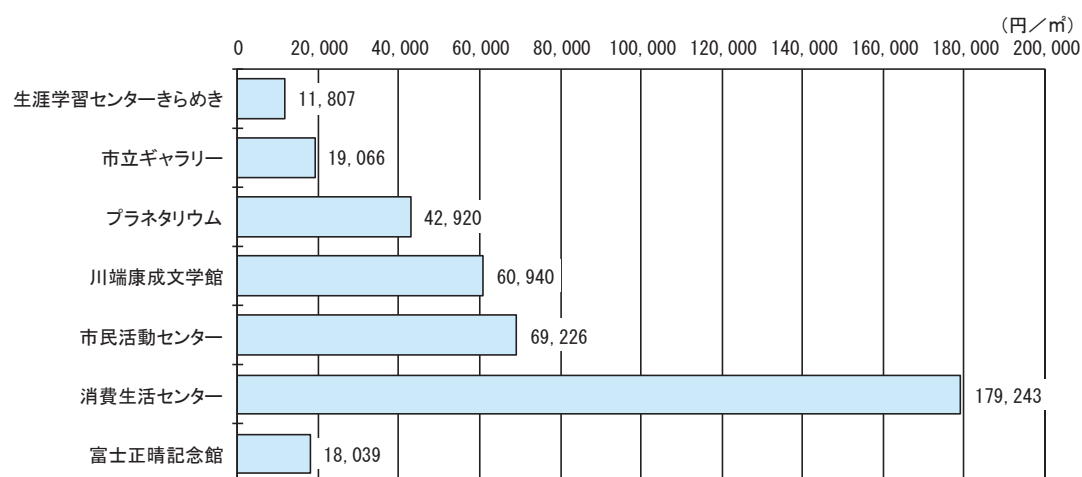


図 3-2-37 延床面積 1 m²あたりの市負担コスト（H28 年度）

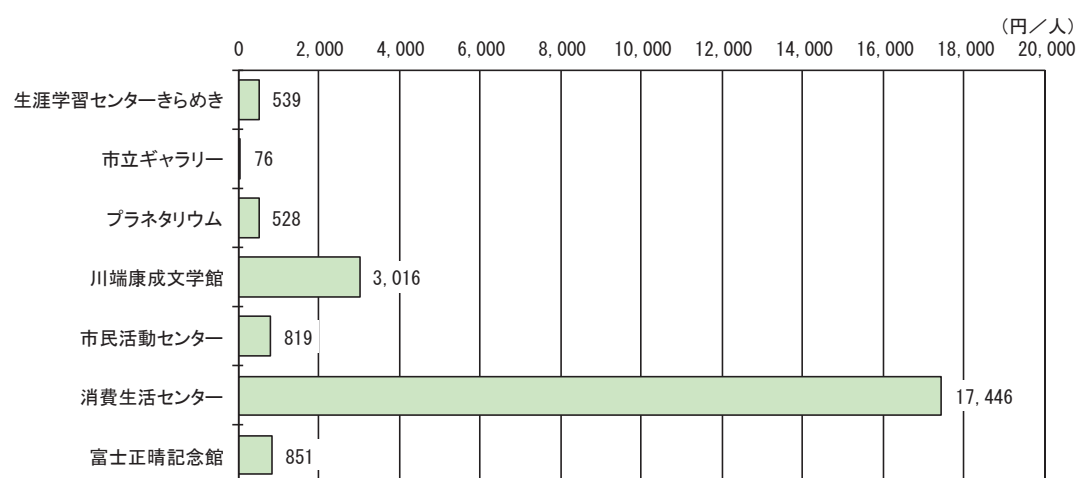


図 3-2-38 利用者 1 人あたりの市負担コスト（H28 年度）

⑥ 単位あたりの利用状況

延床面積 1 m²あたりの利用者数をみると、市立ギャラリーで約 249 人、市民活動センターで約 84 人となっています。

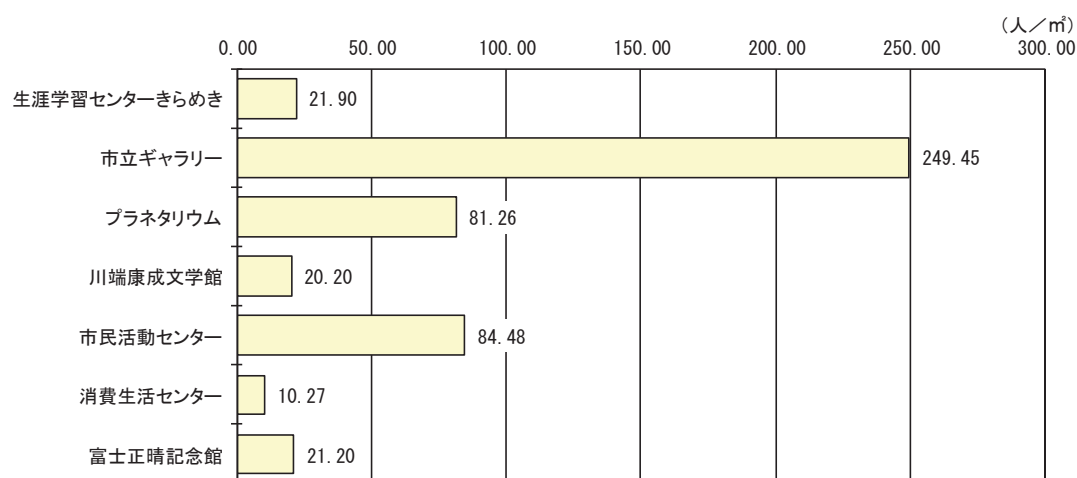


図 3-2-39 延床面積 1 m²あたりの利用者数 (H28 年度)

⑦ 今後の課題等

- 生涯学習センターは、平成 16 年建築の新しい施設ですが、建築後 13 年が経過し、部位や設備の経年劣化が見られます。施設規模が大きく、大規模改修には多額の経費を要することから、計画的な改修を検討していく必要があります。
- 川端康成文学館の利用者数は減少傾向にあり、また、同種の施設である富士正晴記念館は、年間利用者数が約 5 千人にとどまっており、さらなる利用促進が求められます。
- プラネタリウムは合同庁舎の 7 階にありますが、エレベーターでは 6 階までしか上がることができず、バリアフリーの観点から課題があります。